

霧島山の火山活動

—2000年2月～2001年5月—*

Volcanic Activity of Kirishima Volcano
— February 2000 — May 2001 —

鹿児島地方気象台

Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

1. 活動概要

新燃岳を震源とする微小な火山性地震は、2000年1月は1日あたり数回～20回とやや多い状態が続いていたが、2月以降は次第に減少し4月から少なくなった。その後、地震は7月上旬に一時的に増加したが7月下旬には減少し、8月以降は地震の少ない状態で経過した。第1図に1999年9月1日～2001年5月31日の震動観測点A点における日別地震回数、第2図に1970年1月～2001年5月の月別地震回数を示す。

気象台A点における1ヶ月あたりの地震回数は、2000年2月は270回、3月は601回とやや多かったが、4月以降は7月を除き100回前後と少なくなり、10月以降は100回以下に減少した。2000年3月は地震が増えているが、新燃岳から離れた場所（新燃岳火口から西北西約8km）で発生した地震がほとんどであり、火山活動と直接関係はないと思われる。2000年1年間の地震回数は2,157回、2001年1月～5月の地震回数は計254回である。

なお、本期間、火山性微動は発生していない。

一方、東京大学地震研究所霧島火山観測所高千穂西観測点のデータによると、1999年12月初めから高千穂峰・御鉢を震源とする規模の小さな地震が増え、2000年3月上旬には1日あたり60回前後に増加した。地震はその後やや減少したが、地震の多い状態は6月中頃まで続いた。今回の活動レベルは、日回数が100回を越える日もあった1977～1978年以来である。その後、地震は2001年5月まで少ない状態が続いている。第3図に1999年9月1日～2001年5月31日の御鉢を震源とする地震の日別回数を示す。

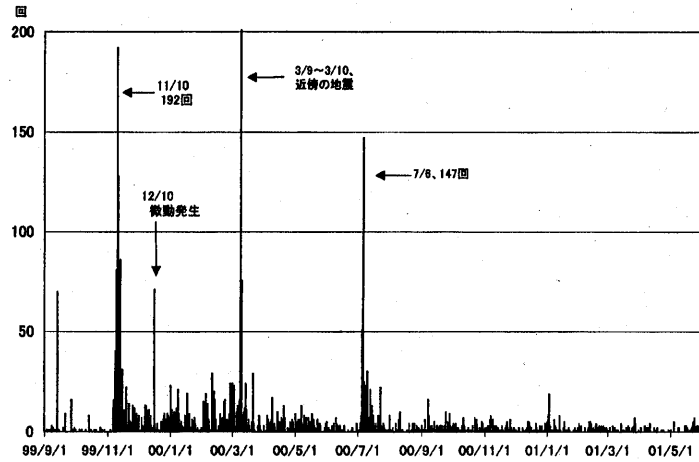
霧島山では本期間、表面現象は特に変化なく経過した。また、気象台は2000年2月に鹿児島県の協力を得て新燃岳、御鉢の上空からの火口観測を行ったが、噴気の量や高さに変化はなく、火口湖の変色域も見られなかった。

2. 火山情報の発表経過

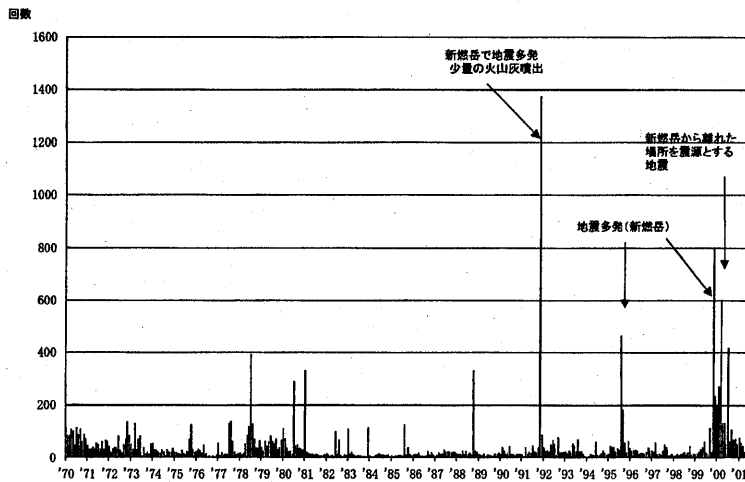
本期間（2000年2月～2001年5月）、鹿児島地方気象台が発表した火山情報は以下のとおりである。

・火山観測情報 第5号 2000年2月1日 ～ 第19号 8月1日

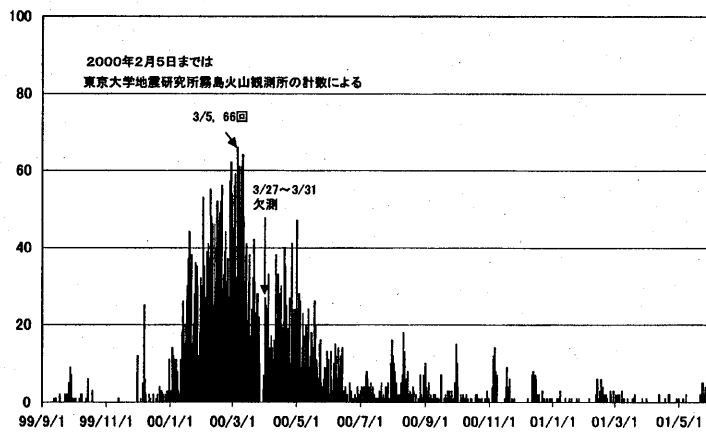
* Received 28 Aug., 2001



第1図 霧島山（A点）の日別地震回数（1999年9月1日～2001年5月31日）
 Fig. 1 Daily frequency of volcanic earthquakes at Kirishimayama volcano.
 (Sep. 1 1999 - May. 31 2001)



第2図 霧島山（A点）の月別地震回数（1970年1月～2001年5月）
 Fig. 2 Monthly frequency of volcanic earthquakes at Kirishimayama volcano.
 (Jan. 1970 - May 2001)



第3図 霧島山・御鉢付近の日別地震回数（1999年9月1日～2001年5月31日）
 Fig. 3 Daily frequency of volcanic earthquakes at Ohachi.
 (Sep. 1 1999 - May. 31 2001)